

笑顔はじける さわやか妻二プロジェクト

校長挨拶



校長 鯉川 好夫

本校では、知・徳・体のバランスを備え、グローバルな視点からものごとを判断でき、やがて地域の核となれる人材の育成を目指しています。そのため、授業を大切にした主体的学習はもちろん、部活動や地域貢献、海外語学研修をはじめとする国際教育などを積極的に推進しています。

現在90%以上の生徒が進学を希望しており、2年連続で国公立大学合格10名以上をはじめ、自らの夢に向かって最後まであきらめることなく進路実現を成し遂げてくれています。また部活動では、運動部、文化部あわせて22もの部活動があり、多くの生徒が参加しています。その中には、県西や県レベルでの活躍のみならず、関東大会や全国大会へと活躍の場を広げる者たちも毎年出ています。その他、生徒会やボランティアなど、生徒たちが輝くことができる様々な舞台が下妻二高には用意されています。

精一杯いろんなことに挑戦する生徒たち、労を惜しまず支え続ける教職員、下妻二高は、そんな生徒と先生が集まっている学校です。これからも、「笑顔はじける さわやか妻二」のキャッチフレーズのもと、地域に愛され、中学生のあこがれとなる学校であり続けます。



組織目標 (目指す学校像)

文武両道を目指して、知・徳・体のバランスの整った人材を育成する。
国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる現代的な視野を育むと同時に、地域の核となる人間性豊かなたくましい人材を養成する。

妻二とは

本校は、光明寺住職三浦空成師により、明治36年(1903年)私塾「女子文芸会」として開設され、明治42年(1909年)に私立「女子綱文学校」に改組されました。その後、幾度かの改組を重ね、昭和24年(1949年)茨城県立下妻第二高等学校となりました。平成5年(1993年)に男女共学推進指定校となり、114年の歴史を重ねています。

本校は、古き良き伝統の上に男女共学校としての新たな伝統を確立しつつあります。近年、大学進学実績が飛躍的に伸び、また同時に部活動にも7割を超える生徒が加入して、関東・全国大会への出場等、おきな成果をあげています。また、オーストラリア語学研修(希望者)など、国際理解教育に力を注いでいます。課外授業の充実、スクールバスの運行など、学習環境も整っています。

本校は、部活動や学校行事等で心と体を鍛え、感性を磨き、学習活動で新たな自分を発見できる、皆さんひとりひとりの自己実現を可能にする学校です。文武両道を目指す意欲的な「君」を待っています。

